

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

私は、2016年(平成28年度)に技術士建設部門に合格、翌年の技術士登録から技術士として日々の業務に勤しんできました。登録5年目を迎えたこの機会に今までの活動を振り返ってみます。

私は、札幌市に拠点を置くダイシン設計株式会社に在職し、橋梁の定期点検、健全性診断、長寿命化修繕計画策定、補修・補強設計等の業務に従事してきました。近年は、トンネルとその他構造物の道路メンテナンス事業全般に携わる機会が増えてきたことから、発注者や関係機関の要求事項等が多様化し、新たな技術基準と知識、経験の習得が課せられております。同時に、ICT技術の急速な進展や実用化を活かした生産性向上と品質確保、人手不足等の課題に寄与するため、調査や設計段階における新技術の導入やユーザー側の積極的な新技術習得は新たな使命と考えております。また、業務においては担当技術者の役割を担い、さらに管理技術者として所属メンバーや若手技術者の指導・育成から、業務遂行の難しさとその重要性を日々肌で感じております。

これらを振り返ると、日本技術士の掲げるコンピテンシーは、まさにこれからの時代に備えるべき能力であり、これらから自己の維持・向上のための新たな課題や目標が見えてきます。この機会を糧に、今後益々実務と継続研鑽に努め、企業だけでなく地域社会に貢献できるよう微力ながら精進して参ります。最後に、今年で創立70周年を迎える日本技術士会に所属させていただき、北海道本部青年技術士交流委員会の皆様とのつながりと社会活動から、多くの刺激を受け、業務遂行の原動力となる種々の動機付けと経験をさせていただき、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

**密山 彰浩**(みつやま あきひろ)

●建設部門  
(鋼構造及びコンクリート)

**勤務先**

ダイシン設計株式会社



→次号は、阿部和弘さん(建設部門)

昭和51年に大阪で生まれ、大学院博士課程修了まで実家で過ごしました。その後、ポスドクターフェローとしてつくばの産業技術総合研究所(産総研)で3年半過ごし、その後、横須賀の海洋研究開発機構で研究員として4年間活動しました。平成24年から現在の北見工業大学で教員として活動しています。

技術士になったきっかけは産総研の時(平成18年頃)の上司が、博士とは別に技術士という資格を取ると信用が厚くなるので受けてはどうかという進言でした。技術士一次試験をすぐに受験し、合格しましたが、2次試験の受験資格が得られるまで数年必要でした。その後、平成23年に2次試験に合格し、技術士登録しました。主に生物工学部門で活動しております。技術士の活動を通じてアカデミアとは異なる人間関係ができたことが大きな収穫でした。

大学ではバイオプロセス工学研究室を主宰し、微生物による物質生産に関連する基礎研究をコアとし、微生物が関連する課題を幅広く研究しています。近年では、競争的資金を活用してAIを活用した培地組成と物質生産の相関解析や培地の最適化技術の開発に特に注力しています。技術士資格を得ていることが関連しているかはわかりませんが、複数の企業や大学との共同研究も推進しています。地元企業の環境大善株式会社とは、大学内に共同研究講座を開設し、家畜の尿を原料とした液体肥料中の植物成長促進成分の解明や有効利用に関する研究について包括的に推進しています。

アカデミア技術士として、サイエンスとエンジニアリングの架け橋になれるよう研鑽を続けていきたいと考えております。北海道技術士会の皆様、今後ともよろしく願いたします。

**小西 正朗**(こにし まさあき)

●生物工学部門(生物化学工学)

**勤務先**

国立大学法人北見工業大学



→次号は、大平勇一さん(化学部門)